

平成26年度 学校関係者評価書 (川南町立川南小学校)

4段階評定 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する

項目	評価指標及び具体的目標	自己評価	自己評価結果の考察・分析及び改善策等	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
I 町民総ぐるみによる教育の推進	1 学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ・参観日出席率80%以上 ・地域の物的、人的教育資源の有効活用(各学年:年5回以上) ・家読(うちどく)の奨励 ・保護者との協働による生活リズムの推進(「みそ汁+1」「スイッチオフ」「ファミリー運動」作戦)	3	○参観日の出席率(4月:87% 7月:86% 9月:84% 11月:96% 12月:80% 1月:71% 平均84%) ○町教委作成の「教育資源の人材バンク」を活用した体験学習の実施を継続中 ○家庭読書充実への働きかけ (教職員による評価:肯定的回答82%→72%) *4段階評定 4[5%→22%] 3[77%→50%] ○生活リズム3大作戦を5月・9月・1月に実施 (5月 みそ汁+1作戦:49% スイッチオフ作戦:33%) (9月 みそ汁+1作戦:43% スイッチオフ作戦:33%) ●みそ汁+1作戦は目標が50%であと少し。一方スイッチオフ作戦は目標80%にほど遠い結果であった。就寝時刻の遅さによる保健室来室児童への指導が課題である。	3.3	<input type="checkbox"/> 教職員の一生懸命さが児童に伝わっていると感じた。学校改善に向けた教職員の意識が高まり、諸項目に向上が見られた。 <input type="checkbox"/> 学校規模の割には、参観日の出席率が高いと思う。一方、学級懇談会に残る保護者が少ないのは、仕事や時間的な理由によるものだろうか。参観日の在り方を再考することも必要ではないか。 <input type="checkbox"/> 一日の食事の基本である朝食「みそ汁+1」の取組はよいが、就寝時刻の遅れによる保健室来校児童が見られることには疑義がある。児童の就寝時刻については、保護者の責任が大きいと思う。スイッチオフについては、保護者が手本を示すことが必要。 <input type="checkbox"/> 生活リズム3大作戦に共感する。家庭での意識改革が必要ではないかと思う。「家読」「みそ汁+1」「スイッチオフ」など、具体的に実践しやすいと思うので、今後も続けてほしい。 <input type="checkbox"/> 月1回発行の学校だよりやふれあい参観日など、開かれた学校づくりの取組を評価する。
	2 家庭や地域の教育力の向上に努める。 ・学級懇談会の充実(年6回) ・家庭・地域との連携による登校指導(PTA登校指導:年3回) ・家庭教育学級の活性化		○学級懇談会の出席率(4月:61% 7月:50% 9月:48% 12月:42% 1月:36% 平均47%) ○2月に学級懇談会とPTA総会を実施 ●保護者の願いや要望を考慮した懇談会の話題の設定や子育てに係る情報提供、アンケート、教育講演会の実施など改善を図ることにより、懇談会出席率の向上を図る必要がある。 ○PTAによる登校指導を6月・9月・1月に実施 ○家庭教育学級は計画的に実施		
	3 開かれた学校づくりを推進する。 ・組織としての学校運営の活性化(各部実効策の活用と評価結果の反映:年2回) ・学校評価を生かした教育課程の改善(児童・保護者アンケートの実施と結果の反映:年2回) ・積極的な情報発信(学校だよりによる啓発:月1回) ・オープンスクールの実施		○組織的な分掌・学年運営に係る教師アンケート(教職員による評価:肯定的回答100%) ◎各部長や主任等を中心に、各部や学年相互の円滑な連絡・調整が図られ、組織的な運営が推進されている。 ○教職員による評価(校務部ごとの評価)・児童及び保護者アンケート:7月・12月に実施 ○学校だよりを月1回発行 ●ホームページの定期的な更新に努める必要がある。 ○ふれあい参観日(オープンスクール)を11月に実施		

<p>II 生きる 基盤を 育む 教育の 推進</p>	<p>1 確かな学力を育む教育を推進する。 少人数指導や個別指導を充実する。 ・算数科における少人数指導、個別指導の推進 望ましい学習習慣を身に付けさせる。【小中連携項目】 ・予鈴着席、チャイム黙想の徹底 ・話を聞く態度の育成(立腰指導の重視)学力の向上を図る。 ・各学年における学力向上対策シートの作成と活用 ・「がってんタイム」の計画的な活用 ・家庭学習の充実を図る具体的指導 ・単元テスト、学習内容80%以上の定着 ・CRT検査の全国平均達成</p>	<p>3 ○少人数指導推進教員を中心とした学級担任との習熟度別指導の実施 第5学年:週4時間×3学級 第6学年:週5時間×2学級 ◎一貫した方針に沿った1単位時間の授業展開や、児童一人一人の実態に応じた、きめ細かな指導と評価がなされている。 ○予鈴着席、チャイム黙想は、学習指導部からの働きかけにより、全校で実施継続中(実施率:ほぼ100%) ○話を聞く指導の徹底(教職員による評価:肯定的回答91%→95%) ○話を聞く態度の育成(児童の自己評価:肯定的回答91%→91%) ○学力調査の結果を生かした学力向上マネジメントサイクルシートを基にした各学年の学力向上対策の推進(学年用シートの作成)及び学年間での共通実践 ●学年主任会を学力向上対策の推進母体として、取組の充実を図る必要がある。 ○学力向上対策のための校内研修を8月に実施 ○「がってんタイム」の共通実践 月:漢字・計算 火・水:計算 木:読書 金:漢字 (教職員による評価:肯定的回答86%→89%) ○家庭学習充実への指導徹底 (教職員による評価:肯定的回答78%→78%) *4段階評定 4[9%→11%] 3[69%→67%] ○1単位時間の授業の成立と単元末の習熟の時間の充実 ○CRTを1月に実施(国語・算数) ○Web学習単元評価システムの実施状況(80%以上の活用)</p>	<p>3.3 □学力向上に係る評価は、全国・県学習状況調査、CRTなどの結果から判断できるが、その前提となる学習習慣の各項目についても昨年度に比べ、評価できる。望ましい学習習慣を身に付けさせるという目標が実現しつつある。 □予鈴着席やチャイム黙想は、授業のスタートに大きな効果を与えらると思う。 □児童数の多い学校ならではの取組である少人数指導の効果は大きい。</p>
	<p>2 豊かな心を育む教育を推進する。 基本的な生活習慣を定着させ、社会規範意識を高める。【小中連携項目】 ・気持ちよいあいさつと返事の定着 ・右一静歩徹底 ・朝の奉仕活動の推進 ・無言清掃、チャイム黙想の徹底 生徒指導の充実を図る。 ・アンケート(月1回)、教育相談の実施 ・えがお推進委員会の充実と不登校児童0の実現 (学校いじめ防止対策の完全実施) 道徳教育、人権教育、ボランティア活動の推進を図る。 ・参観日の道徳授業の公開(年1回以上) ・人権教育研修の充実(年3回)</p>	<p>3 ○あいさつ・返事の指導徹底(教職員による評価:肯定的回答92%→86%) ○あいさつの実施(児童の自己評価:肯定的回答91%→90%) (保護者による評価:肯定的回答73%→76%) *4段階評定 4[18%→26%] 3[55%→50%] ○あいさつ元気隊の編制と継続的な取組 ○右一静歩の指導徹底 (教職員による評価:肯定的回答75%→86%) *4段階評定 4[17%→10%] 3[58%→76%] ○右一静歩模範隊の編制と継続的な取組 ○奉仕活動実施率 (7月 5年:60% 6年:70%)(12月 5年:ほぼ100% 6年:80%) ○青少年赤十字への加盟 ○JRC委員会の発足とボランティア活動への全校的な取組 ○無言清掃の指導徹底(教職員による評価:肯定的回答92%→86%) ○無言清掃(児童の自己評価:肯定的回答88%→89%) ○チャイム黙想の徹底(教職員による評価:肯定的回答100%) ◎縦割清掃で上級生によるリーダーシップが見られるようになった。 ○月1回のアンケートと教育相談を連動させて実施(実施率:100%) ○早期対応、職員会・えがお推進委員会での報告及び共通理解 ○えがお推進委員会の実施(月1回) (不登校児童0名に向けた働きかけを組織的に継続中) ○道徳授業の公開 (12月の参観日に全校一斉に実施) ○人権教育研修会を8月・12月・1月に実施 ◎ワークショップ型研修及び授業実践報告を基にした協議により、内容が充実した。</p>	<p>3.3 □あいさつをする児童が増えてきたと感じる。あいさつや返事については、地域で実際にかかわってみて、約6割の児童が自ら実践している。約2~3割の児童は、声をかければ返事が返ってくるので、自主的なあいさつの指導を更にお願したい。 □縦割清掃における上級生のリーダーシップが目に見えるようだ。縦割清掃の継続を望む。兄弟姉妹が少ない時代に、このような縦割によるかわりはずばらしい。 □不登校ゼロの継続については、幼保・小・中の連携を密にして取組を進める必要がある。 □青少年赤十字への加盟やJRC委員会の発足、ボランティア活動への全校的な取組は、児童にとって貴重な経験となる。 □児童が落ち着きをみせているという保護者の声をよく聞く。大変嬉しいことだ。</p>

3	<p>健やかな体を育む教育を推進する。体力の向上を図る。【小中連携項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プランに基づく個や集団に応じた体力づくり ・体力向上週間 「サーキット・遊び、持久走、なわとび運動」の実施(学期1回) ・外遊びの奨励、運動の日常化 食に関する指導を推進する。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の実践 ・給食指導、「弁当の日」等の取組の推進(年3回) 保健・安全教育を推進する。 ・性に関する教育(年3回) ・エチケットデーの計画的な実施 ・薬物乱用防止教室の実施(年1回) ・う歯の治療率向上(目標60%) 	3	3.4	<p>○教科体育指導の充実(教職員による評価:肯定的回答95%→95%) ○体力向上週間における活動の充実(全校一斉に計画的に実践中) ○運動に親しむ機会と場の設定(教職員による評価:肯定的回答87%→95%) *4段階評定 4[9%→24%] 3[78%→71%] ○「早寝、早起き、朝ご飯」の実践(保護者による評価:肯定的回答85%→85%) *4段階評定 4[30%→30%] 3[55%→30%] ○食に関する指導の充実(教職員による評価:肯定的回答95%→100%) 弁当の日:第1学期[遠足・社会見学] 第2学期[ふれあい参観日(おにぎり+1)] 第3学期[お別れ遠足] ◎コース別の取組により実施率が向上している。 ○性教育は年間指導計画に沿って計画的に実施 第1学期[6月] 第2学期[11月] 第3学期[2月] ○エチケットデーは第2学期から毎週木曜日に実施 [ハンカチ・ちり紙・つめ・うがい・手洗いの調査及び指導] ○薬物乱用防止教室は第5・6学年を対象に11月に実施 ◎講師を招聘し、学校保健委員会に位置付けた取組を進めている。 ○う歯の治療に係る保護者への情報発信と勧告(2月現在での治療率:55%) ●目標の60%まであと少し。</p> <p>□児童は本来遊びを含め運動することが好きだと思う。健康のためにも運動に親しむ児童が増えることを希望する。授業以外や家庭での体力づくりの機会が減少していると思う。今後も授業での体力づくりに力を入れてほしい。</p> <p>□むし歯予防の努力は大変だろうと思う。う歯の治療は生涯的に大切であることを幼少の時期から自覚させる必要がある。長期休業を利用して、治療率を向上させることが大切である。</p>
4	<p>特別支援教育の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常学級との交流や特別支援学校との居住地校交流の推進 ・特別支援教育研修の充実(年3回) ・ことばの教室の充実(川南町地区・都農町地区) 	4	3.6	<p>○交流学习の計画的実施 県立延岡しろやま支援学校との居住地校交流(12月・2月) 県立児湯るびなす支援学校との定期的な交流学习の実施 ○特別支援教育研修の計画的実施(講師招聘によるものも含む) ○ことばの教室は他校の教師とも連携し、言語の障がい種に応じた指導の在り方について助言をもらいながら実施中</p> <p>□特別支援教育担当の先生方が頑張っており、成果が上がっている。学校間及び専門機関との連携を密にし、幅広い知識の吸収に努めてほしい。</p> <p>□様々な形で障がいのある児童が増えていることは事実であるので、対策を講じることが重要だと思う。</p>
III 自立した社会人、職業人を育む教育の推進	1	<p>○講師を招聘しての段階的な川小音頭伝達講習を経て、体育実技研修会での全職員による習得 ◎運動会における全校踊りへの位置付け及び地域人材の活用がなされた。 ○川南町歌斉唱(3番まで)の行事への位置付け 秋季大運動会、入学式、卒業式で斉唱</p>	3.7	<p>□川小音頭を学ぶ児童の姿と、運動会での全校踊り(川小音頭)に感動した。町歌3番までの斉唱にも期待している。日頃の学びから、川南町の誇りや愛着の教育が浸透していると思う。</p> <p>□地域には地域ならではの文化があり、継承することが地域のため、児童のためにもなると思う。活用できるものは、遠慮なく活用する方がよい。</p> <p>□合併をせずに独立独歩を選んだ町なので、町歌を通じて町の絆を強めてほしい。町婦人連絡協議会が贈った『町歌の額』が、その一助になればいいと願っている。</p>
2	4	<p>○キャリア教育年間指導計画に沿った授業の実施及びキャリア教育研修会(夏季休業中)における教師の資質向上 ○関係機関と連携し、就学前の幼児の実態を段階的に把握(小学校生活へのスムーズな移行に資する) ○唐瀬原中学校・国光原中学校との交流の推進(生徒会による学校説明、部活動体験等)</p>		

IV 魅力ある教育を支える体制や環境の整備、充実	1	<p>教職員の資質向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を核とした校内外の研修、OJTの推進 ・学年部での授業の構築(1人1授業、相互参観授業の実施) ・服務規律の徹底(年3回以上のコンプライアンス研修) 	4	<p>○第2学期より、計画に沿って学年部での1人1研究授業や提案授業を実施し、授業力向上への取組を推進</p> <p>◎コンプライアンス研修を長期休業のみならず適宜実施し、服務規律遵守意識の更なる高揚を図った。(コンプライアンスチェックシートの活用)</p>	3.6	<p>□教職員の日々の努力に感謝している。授業が分かりやすく、このことは教育の基本だ。</p> <p>□学校一丸となって教育活動に取り組んでいる。</p> <p>□教職員の資質向上には、やる気を育てることが大切であり、校長・教頭の重要な役目だと思う。</p> <p>□教育体制や教育環境ともよく整えられていると見受けられる。しかし、過剰になりすぎると問題が生じるので、適度な頃合いで整備を進めるとよい。</p> <p>□教育を支える校内環境は、敷地面積が広い割には整備されている。運動場のスタンド周辺は危険箇所が多く、今後更なる整備をお願いしたい。</p>
	2	<p>学校における安全、安心の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年での交通安全指導の実施(1学期) ・避難訓練の実施(年5回:学校行事3回) ・安全点検の実施(毎月) 		<p>○日常的な安全指導の実施に係る教師アンケート(肯定的回答100%)</p> <p>○計画的な避難訓練の実施に係る教師アンケート(肯定的回答96%→100%)</p>		